

第5回 新発田駅前複合施設基本設計審査会 会議概要

- 1 開催日時 平成25年12月11日(水) 午後6時から8時
- 2 場所 新発田市役所 別館 4階会議室
- 3 出席者 9名(委員全13名)

中 渡 憲 彦 委員	前 田 圭 子 委員
川 本 健太郎 委員	三 浦 ユリコ 委員
鈴 木 美和子 委員	鈴 木 秋 彦 委員
竹 田 和 夫 委員	山 口 恵 子 委員
寺 尾 ちはる 委員	

欠席者 4名

吉 田 育 子 委員
荒 川 真里子 委員
近 藤 麻衣子 委員
山 田 恵理子 委員

- 4 傍聴者数 5名
- 5 会議次第

1 報告事項

- (1) 第4回基本設計審査会概要について
- (2) 第5回基本設計ワークショップについて

2 議事

- (1) 新発田駅前複合施設基本設計案(平成25年12月8日)について

質疑応答

委員

資料で4階に湯沸かし器の設置とあるが、可能であれば全ての階に湯沸かし器を設置することを検討して頂きたい。いずれの階にも、市民が使うであろう多目的室があるので、それに関連してやはりお湯は必要であると思う。

設計業務受注業者

ワークショップでも職員のゾーンに給湯室が必要になってくるので、これは計画すると伝えている。熱湯が出ると安全管理の部分も検討しなければいけないので、今後市と協議しながら、運用面も含めて検討していきたい。

委員

前回の審査会でも、何人もの委員の方から建物の形状について指摘、意見があったかと思う。読み聞かせコーナーとか手洗いとか局所的な部分は確かに工夫されているので理解できるが、全体として菱形にこだわる理由が分からない。使う側から動きにくいし、全体としてデッドスペースがまだまだある。これは最大の課題ではないか。

もう一つは1階の部分であるが、私はある意味生命線だと思っている。1階の部分から上に上がっていく、そういう気持ちになるための仕掛けを施していく必要がある。総合カウンターに人を付けるだけでは不足ではないかと思う。上に導くコーナーとかは、ハード面でもソフト面でも考える必要があるが、ハード面でも位置付けが必要である。

参考に新潟大学の新しい図書館は、本を読む部屋は四角い。岩手県の一関市も新しい図書館を造っているが、こういう形にするという話が全然出ていない。図書館という本来の機能を考えて、オーソドックスなものが必要ではないのか。

設計業務受注業者

菱形については、前回いろいろなご意見を頂いて、問題になっている部分、ご指摘を受けた部分について調整をしてきたつもりである。動きにくい、使いにくいのではないかという懸念があるわけだが、模型等を見て頂いた方が良いのではないかと思う。必ずしも真四角だから使いやすいということではないと考えている。決して使い勝手を犠牲にしてこういう形にしたわけではなく、全体的に敷地の形状も踏まえた上で配置した結果、こういった案を示している。

上に導くコーナーについては、今頂いたご意見なので、上の階に行けるような工夫を、ハード面、ソフト面を含めて検討していきたい。

委員長

全国で菱形の例とか実際にあるのか。

設計業務受注業者

明治大学に新しい図書館が同じような書架配置をしている。まっすぐ並べるよりも、少し斜めにした方が書架の中に入って行きやすいという効果がある。図書館が中心となって、キッチンスタジオや子どもセンターといった機能をいかに繋いでいくか、図書館は触媒として浸透していくようなことが、複合施設の一番の魅力になればと思う。前回お示しした細かい部屋だと歪んでしまって、非常に違和感を覚えるような所があるということで、例えばサークル室であるとかボランティア室の所についてはきちんと整形な部屋にして、残りの部分のいわゆる図書館の大きな空間においては、少し効果を期待しながら繋がっていく空間があるのではないかと考えている。プレイルームから反対側の商店側の方まで約100m位ある。これをいかに繋げていくかが建築家としての腕の見せどころであり、そういったことも踏まえながら今回提案をさせて頂いた。勝手にやっているのではなく、ご提案させて頂いているということでご理解頂きたい。

委員

今聞いていても全然答えになってない。なぜ菱形でなければいけないのか、必然性を整理して頂きたい。最近で、一例位しかないのではないか。全国に多数とか、あるいは諸外国でも、大半は菱形ではないはずである。あるとしたら、円形の方がかえって良いかもしれない。例えば、私は職業柄いろんな施設で人を入れたり、並ばせたり、イベントをやったり、道具を入れたりそういう作業を日常茶飯事やっているが、こんな建物で

やるのははっきり言って難しい。使う側のことを重視して考えて頂きたい。

委員

今の意見に賛成である。私もいろんな所を見てきたが、こんな図書館見たことがない。見た目よりも使い勝手の良い方がいい。これから先何十年も使うので、ここは雪が降りますし、雪に対して長方形の方が安定している。

設計業務受注業者

最近、小布施町という所に同じような三角形の書架がある。非常に良い図書館で、昨年、図書館協会建築賞を取っている。ぜひ参考にして頂きたい。非常に人が入っていきやすい図書館になっていて、そこでのクレームも出ていない。非常に喜ばれている施設である。これから造る施設であるので、何か少し工夫をしながらと思っている。必然性については後日整理をしてまとめたい。

委員

それぞれの階の閲覧席は何席ずつか教えて頂きたい。

2点目に駐輪場が200台とあるが、これだけの大きな駐輪場はあまり聞いたことがないので、その理由を教えていただきたい。

3点目土地の形状が非常に不整形で、この中で最大限の書籍の蔵書と閲覧席を取るために多分工夫をされたのだらうと推測されるので、その点についてお答え頂きたい。

設計業務受注業者

座席については、全体で約300席を見ている。蔵書数については、開架に出ている本は約20万冊、4階部分の大きな閉架書庫は20万冊と、分館用の本が約4万冊、合計24万冊程度となっている。

駐輪場については、当初の基本方針に200台という台数が明記されていたので、それに則って200台という台数を確保している。詳細に検討し、今200台必要であるという台数ではないので、スペースの問題も含めて、もう少し減らした方がいいかもしれないという考えがある。

敷地形状について長方形という話もあるが、この敷地に長方形を置くと、建物として成り立つかというところというわけにはいかないもので、長方形がいくつか繋がったような形になってしまう。結局、どこかに死角ができたり、デッドスペースができることもあるので、我々設計業者で検討した上で、四角を繋げるよりも、この形状の方がこの敷地の中で、今計画したいことが実現しやすいのではないかという案になっている。

委員

確か駐車スペース65台位と言っていたが、少しでも車を余計に止めたいと思うのであれば、この駐輪場のスペースについては、図書館に200台というイメージがあまりできないので、少しでも駐車スペースに確保した方が良いのではないのか。形状については、不整形の中でこれだけのスペースで蔵書44万冊となるといたし方がないところもある。ただ、視覚的に人間は曲がっていたりすると非常に気分が悪い方もいらっしゃる

るというのは事実かもしれないので、少しご配慮していただく必要があると思う。

委員

菱形と長方形であるが、確かに土地の形もあるが、もう少し長方形を二つ並べる形に考えられないか。菱形と長方形を比べた場合、壁面と面積で建築費用がどれくらい違うのか。

設計業務受注業者

建築費用についてはそんなに大差はないと思う。長方形で検討もしてみたが、やはり東西の長い距離をうまく繋げていくために、空間的にうまくできなかった。菱形を模索していく中で、空間的な繋がりをもって広がりとうまく絡み合いながら繋がっていくと思われる。ちょうどその結節点にサービスカウンターを置いて、機能融合の象徴として、運営側の方がいらっしゃるという所がうまくできるのではないかと思う。これを長方形ですると難しい。

委員

機能融合というのはやはり大事なことなので理解できる。シンボルツリーは大変申し訳ないが、周りに諏訪神社や東公園の緑があるので、その兼ね合いであえていないと思う。

設計業務受注業者

シンボルツリーについては、ワークショップの方でも提案されていたものなので、一つの象徴として、建物といっしょに成長していける、共通の広場というコーナーを作りたいという思いがあって設けた。

委員

費用対効果としての違いはほとんど変わらないというが、菱形で造るのと長方形で造るのとで、建設費がどれくらい違うのか数値を持って示してほしい。

委員

今のご意見に絡むのですが、むしろ絵で示してほしい。口で言われてもわからないので、次回までに2案を提示して頂きたい。長方形だとできない理由を絵に描いて、案を出して頂かないと比較ができない。

委員長

そのような資料を提供して頂くということによろしいか。もう少しわかりやすく、計画案のメリットを次回までに提示して頂きたい。

委員

どうしても吹き抜けが必要なのか。塩尻で見てもとても不安を感じた。子ども達が騒ぐし、正直言って怖いと思った。

設計業務受注業者

ワークショップでも上から下を見たり、下から上を見たりという風景があった方が良くといったご意見を頂いている。音についてはガラスとかでだいたい大丈夫である。温

度も階ごとに処理ができる。

委員

今回5回目の審査会で、私は、全ての会のワークショップに出て、これまでの流れを見てきて分かっているつもりである。本当にいろいろと入れて頂いて、そしてまとめて頂いて、良く仕上がっていると思う。いろいろな懸念が出ているが、一番最初の頃に立体的なモデルがあったと思うので、次回までに目で見えるものをぜひ作って見せて頂きたい。

委員長

図面だけだと壁なのかガラスなのか分からない。ランニングコストも建設費も相当変わる。特に吹き抜けの所を全面ガラスにすると相当の機械で制御しないと快適な場所にはならないのではないかと。その辺、分かるものがあると良い。もちろん雪の降ろし方とか、どのように処理されるのかもだいたい検討がつくようにして頂きたい。

委員

会を重ねるごとに無駄なスペースをうまく使って、まだ完璧に使い勝手が良いとは言えなかもしれないが、素晴らしい設計になっていると思う。少し気になったところが、前回の審査会でキッチンスタジオが狭いのではないかとという意見があった。その辺を確認したい。

それと前回は、外から2階へ直接上がる階段があったと思う。図書室の方に入りたい人は直に上がれるので良いと思ったが、今回その辺が無くなっているので、確認をさせて頂きたい。

設計業務受注業者

キッチンスタジオについて、狭いのではないかとのご指摘を頂いていたが、各調理台の寸法や通路の寸法は確保している。寸法を示した上で大丈夫ということでご理解頂けると思う。もう1点は、前回お示した準備室が三角形で使いにくい部屋であると、その辺りも心配されていたと思うが、今回四角にしているということ、多目的室側にも倉庫を設けているので、ご指摘頂いた点については改善されていると思う。

2つ目に階段が無くなったのではないかとご指摘についてであるが、前回は中央に大きく設けていたが、今回コンパクトに設けており、階段を無くしたわけではない。

委員

キッチンスタジオは、だいたい24～30名位で設定されているようであるが、例えば食材を運ぶとき、階段を上って食材を上げる想定なのか。仮にエレベーターを使うとなると児童書架を通らなければならないので、いろいろと皆さんにご迷惑をかけると思う。30人分位の食材を運ぶのは、私も何度も経験しているのでわかるが、結構、階段を上るのは大変なので何とかならないか。

設計業務受注業者

2箇所エレベーターがあるが、一つは書架を利用されるお客様がメインのエレベータ

一で、もう一つはサービスがメインで、図書館の本を上げたり下げたりする所である。この施設だとエレベーターは2台位と考える。もしエレベーターを使つての搬入となると、もし可能であれば、館の営業前とかに搬入をして頂くとかできればと思う。

委員

例えば、居酒屋さんのように食材だけを運ぶエレベーターはできないか。

設計業務受注業者

その辺、管理が大変なので、今頂いたご意見について検討させて頂きたい。

委員長

そうなるキッチンスタジオはこの場所でなくてもという計画も必要。最近の話題で、無形文化世界遺産で和食文化ということで、そういう意味で端っこではなく、もう少し良い場所に置いた方が良くはないか。それを全面的に施設の目玉にしなが、まちづくりに寄与するというふう考えた方が良く。食育コーナー等を重要視し、ガラス張りで見えるようにして、外に面した場所が良くはないのか。

委員

活性化という観点から、市民活動等で集まるスペースがない。情報発信をすると言っていたが、それはどこでやるのか。1階のカフェやくつろぎスペースは休憩するようなイメージしかない。活性は交流する空間づくりを考えなければならない。事務局は活性化というイメージをどのように思っているのか。

委員長

中心市街地活性化を考慮した、民間建設予定地の所にも一応考えているということで、住み分けしたような感じのプランニングになっているわけだが、今聞くと逆に多目的室とかをもう少し前面に出して、交流したイメージを中心市街地活性化の目玉と複合施設の一つの特徴として出したのではないかと受け取れるがいかがか。

事務局

例えば生涯学習センターのような、そこで活動することをメインとした施設にはなっていない。むしろ図書館を触媒とした形での連携機能、融合した中心的なテーマにきているというのは事実である。図書館と交流を前面に出していくとこういう造りにはならないと思う。いずれも大切なことであり、元々駅前複合施設は一体となった賑わいを創出したいというのがあるので、行政棟の案だけで、全てを賄えるものではない。ただ民間棟へ全ての意味合いを、商業施設へ交流等を全部お任せするのはやりきれないところもある。民間棟に関しては商業施設も兼ねている。あるいは観光案内とか医療関係も入ってくるので、そういう面で賑わいというものもあろうかと思う。図書館を触媒にした賑わいを見ながら民間棟で、今のところ計画上どこまで実現するかわからないが、若者達を民間棟の中に取り込んでいきたいという計画作りをしている。

委員

図書館がもたらす賑わいというのはいったいどういうものなのかイメージがつかない。

民間施設の商業施設は良さと悪さがあって、地域活性の一番の難しさというのはどの地域を特定するかということである。例えば、駅地下に商業を持っていくと逆に人が行かなくなることも考えられる。東京とか大きな駅に駅中と言われるくらい、より外に出ないというようなことが起こる。商業による活性ということであれば、なおさら外に出ていく仕掛けがない限りなかなか賑わないと思う。駅前だけに人が集まるのが活性なのか。

事務局

複合施設で行政棟の所だけ賑わいが生まれ、ここだけで自己完結することだけが目標ではない。ここにお出で頂いた方がまち中に流れて頂きたい、まちの魅力をさらにまた理解を深めて足で歩いて頂きたい、足を延ばして頂きたい、歴史の道、水の道を伝いながら落谷虹児や白壁兵舎まで行って頂きたい。図書館を利用する方イコール賑わいだけではない。その方々が利用しながら、尚且つまたまちに出て頂く、それによってまた賑わいが生まれてくる。塩尻も多くは松本から施設の魅力に惹かれてやってこられる方が市外からもお出でになる。例えば新発田であれば、隣接、近隣の方々が、新発田のまち中に入っていけるような動線も考えていかなければならないと思う。

委員

民間施設との接合点、機能が融合するような空間というのはどこか。

委員

観光案内所が民間棟に入る予定である。新発田駅にお客様が降りたときに、そこから新しい旅の入り口として、観光案内所が始まる想定をしている。例えば、今までなかった荷物一時預かりをし、まち中の散策を楽しんで頂けるようにしましょうとか、旅の出発点として着地型の旅行準備にガイドがご案内をして、まち中やまたはお菓子屋さん、いろいろなお土産品を買えるようなスタート地点となるもの、または新発田の食のまちで体験する動き作りであったり、和菓子作りであったり、金魚台輪の土鈴に色付けをするなどの体験観光部分が民間施設と行政棟の部分を繋ぐ一つの使い道になるだろうと考える。そうしないと隣接した所にそれを建てて、融合させていく部分ができないであろうと思う。観光の部分と商業者の部分を繋げていくことを検討している。

委員

今の図書館は閉架が1階にある。今度2階の児童開架の所で、この本が閉架にしかない場合、4階まで取りに行くのか。2階に書庫は付けられないか。

設計業務受注業者

今の児童書開架冊数が倍になり、相当の数になるので、大きな所では開架の所になる。

委員

本棚にぎゅうぎゅう詰めになると、特に子どもさんの場合は取りにくい。将来のことを考えてスペースがいっぱいあった方が良いと思う。

設計業務受注業者

今の図書館全体で約20万冊であるが、今回40万冊を目標にしたいと考えている。

本棚に余裕をもって入れたとして換算しても、児童図書の所は3段にして、計算をきちんとすると約20万冊近くあるので、今は計算上入る。

委員

サービスデスクは他全体を見渡せることができるか。

設計業務受注業者

想定では大人が使う所は5段、子どもさんが使う所は3段、高くても4段であり、視界は妨げない。

委員

2階の平面図の説明を受け、会を重ねるごとに要望も出して頂きながら、一連の流れというのがよくわかった。子育て支援の方の専門としては、すごく子どもの動きや保護者の動きのイメージができ、良くわかるようになった。

委員

上に上がっていくための意見を先ほど申し上げたが、民間棟と繋ぎをどう考えるのかとか、賑わいをどう考えるのかというご指摘もあったが、それを踏まえるとやはり1階の総合カウンターがここに入っているのを、もう少し内容を膨らませることができないか。情報検索のコーナーとかいろんな機能を充たして、それをガイドが案内することや、それだけでなく、自分で調べながら、又は相談に乗りながら、そして提案もできる仕掛けを1階に置くことができないか。

設計業務受注業者

全くそのとおりで、玄関の考え方は本当に大事かと思う。駐車スペースだとか限られたスペースの中、十分工夫しながら施設全体に関わることなので、運営の方も綿密な話し合いをしないと成り立たないので、今後玄関部分をどうしていくのか、最重要視していきたい。

委員

加治川地区住民代表として参加しているが、この度は新発田市の中心市街地に立派な図書館、複合施設が建設されるのは本当にありがたいと思う。今は車に乗ればどこまでも行けるが、年を重ねるごとになかなか車に乗れなくなり、分館までは行けるけれども、新しい施設までは行けないこともあろうかと思う。各地区の分館に、できれば新しくできる図書館の文庫本の貸出ができるようなシステムがあるとありがたい。合併特例債を使つての事業でもあり、合併前の町村の住民にもメリットのある施設にして頂きたい。

事務局

今後、図書館の本館、分館との連携を図っていくかについては、システムの関連もあり、今後の重要な課題である。システムを導入することによって、どういうサービスが分館に提供できるかは、今後図書館の方と運用、運営について議論しながら進めていきたい。

委員

お昼寢室がマシンルームの隣にあるが、振動とかはないのか。

設計業務受注業者

マシンルームの中には機械があるので、当然音は出るが壁で吸収される。今ご指摘を頂いて、お昼寢室の近くでない方が良いように思うので調整させて頂きたい。

(2) その他

事務局

今回第5回設計審査会と、先週第5回ワークショップも並行して作業を進めて頂いて、本当にありがとうございます。先日開かれたワークショップの中でも、参加者の方から質問を頂戴している。今12月定例会で議会がちょうど開催中で、議員の皆さんからもご質問を頂戴しているので、少し私の方から話をさせて頂きたい。

皆さん方のおかげでかなり作業が進み、一つの形が出来上がってきたと思っている。ただ当初、私共が想定していた事業規模が随分、いろんなワークショップの意見、提案箱の意見、市内図書館、こども課等々どんどん入れていったらかなり大きくなってきた。今現在、形がきっちり決まったわけではないので、事業費についてもこれからの話になるが、今佐藤総合さんの方で建築にかかる事業費、中に入る電気設備、家具、調度品等々いろいろ積み上げていくと、椅子一つ、ソファ一つでもかなりの金額になる。その積み上げ作業も併せて行って頂いている。

アベノミクス、なかなか地方の方にはまだ効果が表れていないが、かなり人件費とか資材等も高騰している状況であるので、私共が当初想定している事業費から、かなり膨らんでくるのではないかと感じている。面積も今6,600㎡位とお聞きしており、設計を依頼するときは6,000㎡位だったが、どんどん夢が膨らんで600㎡大きくなってきている。これから事業費を出していく中で、市全体の財政の問題がある。先ほど申し上げたアベノミクスが、新発田に来るにはもう少し時間がかかる中で、新しい庁舎も併せて造ろうということで、これも当初計画している事業費より、現段階で物価上昇等々の関係で、10億円位実は事業費が膨らんだということも試算が出ている。そんな中でいろんな議論を頂いて、段々形が見えてきたが、事業費がある程度、概算で出てきた中で、内部で本当に全てができるのかどうかも精査をしなければならないと思っている。設計事務所の方ともいろいろ協議をしながら、これからその作業を年末にかけて進めていきたいと思っている。設計事務所の方で見直すべきところは見直して頂いた中で、最後はやはりお金の問題はどうしても切り離せない部分があるので、私共の方で、財政的な状況も次回までにその辺を整理した形で、委員の皆さんにご協議、ご相談をさせて頂きたいと思っている。先日のワークショップで、できれば年内ということで、ちょうど暮れも押し迫るといことなので、年明けくらいにその辺の考え方を整理したものを、もう一度ワークショップの皆さん、審査会の皆さんにお示しをして、またご議論を頂きたいと思っている。いろんな議論をしている中で、せっかく膨らんだ夢を萎むような話

をし、大変恐縮であるが、市長も今日議会の答弁の中で、そのような考え方で答弁をしている。

いくら国の交付金がある、特例債があるといって、市民の方の大事な税金を使つての事業なので、財政計画との調整が必要だと思っている。今回造ると、あと50年なのか、100年なのかかわからないが、5年、10年と建替えをして造れるようなものではないので、できるだけご意見を尊重しながらまとめていきたいと思っている。

質疑応答

委員

11月末で締め切った一般の方の提案と、1,400人分の高校生アンケートをまとめたものを見ることができるか。

事務局

提案箱については116件のご意見を頂いた。11月30日が締切のため、整理が終わり次第、委員の皆さん、ワークショップの皆さんにもお伝えしたいと思う。またホームページ等で、どなたでもご覧頂けるようにしていきたい。

それから、ワークショップの中で委員の皆さんからどんな意見が出たかということで、その他の欄に記載がある。管理、運営に関してもいろいろな意見があるので、その場を設けてほしいというご意見があった。来年、どのタイミングでスタートできるかわからないが、運営についてもワークショップ的なものを考えていきたいということ、ワークショップの所でもお話を申し上げたところである。次回、いろいろ頂いたご意見と、重ねて精査していかなければならない部分もあるので、かなりの労力と時間が必要になってくる。できれば年内と思うが、課題提起を頂いた内容を踏まえると、場合によっては年明けもありえる。しっかりとスケジュールを組上げて、審査会の開催日程を追ってご案内したいと思うので、今しばらくお待ち頂きたい。

委員

図書館のイメージがわかるような、例えば県立図書館だとフクロウが住んでいるからフクロウの図書館としている。子どもたちが多く使う階に、ゆるキャラみたいなものを入りに置くとか、市独自のキャラクターみたいなものを、図書館の名称も踏まえて検討することを提案したい。

午後8時終了